



# Green Community

日南町森林組合広報誌  
グリーンコミュニティー

## Contents

花粉の少ない森林づくりコンクール	P2
木質バイオマス発電事業計画ほか	P3
活動報告	P4~
事業報告・理事会報告	P6
日南町の林業を支える人ほか	P7
お知らせ	P8

2025. 4月号 vol.162

# 花粉の少ない森林づくりコンクール2024

## 林業技術・林業経営部門と多様な森林づくり部門で奨励賞を受賞

前号で速報としてお伝えしましたが、一般財団法人全国林業改良普及協会による「花粉の少ない森林づくりコンクール2024」において、「日南町樹木育苗センターにおける優良苗木の生産」が林業技術・林業経営部門で、「カラマツの植林による多様な森林づくり」が多様な森林づくり部門で、いずれも奨励賞に輝きました。

国民の約4割が罹患していると言われる花粉症については、多くの方が春先の花粉飛散期にくしゃみ、鼻水、目のかゆみといった症状に悩まされており、この花粉症による経済的損失も大きいと言われています。このような花粉症の原因となる花粉としては、スギやヒノキなど樹木によるものが多いと言われています。

このため、スギ・ヒノキ花粉の発生を抑えるため、「花粉発生源対策」として、国や都道府県では、花粉の少ない苗木の開発や増産を行うとともに、そのような苗木への植替えが進むよう、伐採に対する支援も行っています。

こうした中、令和5年度に、花粉症対策について国全体で取り組む「花粉症対策の全体像」が示され、花粉発生源対策を促進する現場での優良な取組事例を幅広く募り、その取組事例の普及を図ることを目的に、「花粉の少ない森林づくりコンクール」が実施されることになりました。



日南町樹木育苗センター

### 《林業技術・林業経営部門》

#### 「日南町樹木育苗センターにおける優良苗木の生産」

令和3(2021)年12月に竣工、住友林業(株)の技術提供を受けながら、令和4(2022)年度からカラマツ、少花粉スギなどの優良苗木の生産に着手、スギ人工林の2割減少を目指し、当該施設で、花粉の少ない苗木の生産拡大に積極的に挑んでいる取組みが評価されました。



### 《多様な森林づくり部門》

#### 「カラマツの植林による多様な森林づくり」

開放型特定母樹採種園(約2.5ha)の整備、日南町森林資源活用計画に基づく皆伐・再造林の推進、スギ人工林の再造林時におけるカラマツの植栽率の増大、(株)大林組のカラマツ苗木生産パイロットプラントの実証実験のサポートといった取組みが評価されました。



この受賞を励みに、「花粉の少ない森林づくり」を目指すとともに、皆伐・再造林の推進と循環型林業の構築に努めます。

町の森林資源の積極的な利用を目指して



# 木質バイオマス発電事業計画が進展中！

町が令和6年7月に実施した「遊休不動産サウンディング調査（対話型市場調査）」に2社から木質バイオマス発電事業の提案があり（その後、1社が提案を取り下げ）、昨年末には地元説明会が開催されました。その計画は、フラワーセンターの跡地（その後、三本松農場に変更）を活用し、750kWの木質バイオマス発電事業を展開するというものです。

下図は、稼働予定を含む日南町近隣の木質バイオマス発電所の一覧です。これだけの発電所がある中で、恒常的かつ安定的に燃料供給していくには、事業に対する地域の合意形成はもちろんのこと、将来のビジネス展開についての議論も必要です。町内に木質バイオマス発電所が建設されるということは、そこには新たな雇用機会が発生します。「燃料を集める」という新たな仕事生まれることで、林業に従事する人が増える可能性もあります。木質バイオマスは、山村地域の経済を活性化させ、林業にとってプラスとなる可能性を秘めています。

森林組合としても、町の豊かな森林資源を持続的に活用し、地域の活性化にも繋がる当該事業を支援していきたいと考えています。



## J-クレジット売買契約



2月7日、鳥取銀行根雨支店の仲介により、(有)大生建設、(有)近藤板金工作所、(株)マシン・メンテナンス（日野町）の3社に、組合保有のJ-クレジットを、各々25 t、10 t、5 t、購入していただきました。この日の売買契約締結式には、大生建設の川田治代表取締役、近藤板金の近藤英義代表取締役、マシン・メンテナンスの田邊秀幸代表取締役、鳥取銀行根雨支店の岩本桂支店長らにご出席いただきました。そして、同月14日には、長尾石油店（上石見）にJ-クレジット5 tを購入していただき、長尾公博代表と売買契約を締結しました。

また、お知らせが遅くなりましたが、昨年9月2日には、(株)ウェイトボックスの仲介で(株)CHCP-Pと10 t、12月3日には、住友林業(株)が運営する「森林価値創造プラットフォーム(森かち)」の仲介でNTTコミュニケーションズ(株)と43 tの売買契約を締結しています。

これらJ-クレジット売上金は、SDGsの理念で、組合の基本方針でもある循環の森林づくりの経費の一部に充当しています。



左から川田社長、近藤社長、田邊社長



右が長尾代表

## 活動報告 Activity report

12/2  
～12/6 **林野庁職員が実務研修**



12月2日(月)から6日(金)まで、林野庁林政課の職員1名が、当組合での林業実務研修に臨まれました。

主な研修内容は、①日南町の循環型林業、②森林経営計画、③林業現場視察、④木材団地視察、⑤樹木育苗センター視察、⑥スマート林業で、最終日には、職員との意見交換を行いました。

最後に、「講師の分かりやすい説明と実践的な演習は、林業実務への理解を深めるのにとっても役立ちました。異なる視点からの学びを今後の業務に活かします」と所感を述べておられました。



林業現場の視察

12/2・20 **超高性能林業機械視察**



12月2日に鹿児島県の(株)迫田興産で、12月20日に東京都森林組合で、超高性能林業機械による伐採、造材現場を視察しました。

東京都森林組合で視察したスパイダー(写真)は、四輪多関節型作業機械で、傾斜地の作業環境の対応性に優れ、複雑な地形でも安定した姿勢を確保して、安全に作業を進めることができます。そのため、森林作業道の作設を減らすことができ、林産業務の生産性の向上を図ることができます。今後、国、県、町に支援をお願いし、導入を検討していきます。



東京都森林組合での現場研修

1/10 **鳥取県皆伐再造林推進会議**



皆伐再造林の推進には、森林所有者の再造林コストの負担軽減と獣害対策が大きな課題です。

本町における再造林については、町及び当組合の支援事業によって、森林所有者のみなさんの負担の軽減を図っています。しかしながら、林内の獣害対策は遅れを取っているのが実情です。獣害による森林被害の拡大は、林業生産コスト増大や森林所有者の経営意欲の低下を招きます。皆伐再造林の推進に向け、専門の捕獲者の確保など、獣害対策の構築も避けることができない課題となっています。



シカによる食害

1/29 **鳥取県林業安全大会**



林業事業者経営者を始め、全ての林業関係者の安全意識の向上を図り、林業災害の防止に向けた取組みを推進することを目的に、「令和6年度鳥取県林業安全大会」が、エースパック未来中心(倉吉市)で開催されました。

かつては「きつい」「きたない」「きけん」の3K産業のひとつに数えられた林業ですが、安全装備着用の義務化や高性能林業機械の導入などにより、そのイメージも大きく変わりました。作業現場の安全性と林業災害防止に向け、職員の技能と一層の安全意識の向上を図ります。



## 2/1 日野郡産業振興大会



日野郡経済の発展を目的とする「日野郡産業振興大会」が、日野町山村開発センターで開催されました。

以前、「猟政懇談会」として開催されていた大会が平成30年に復活、コロナ禍での中断を経て、令和6年に再開、今年は、平井知事を来賓に迎え、日野郡猟友会をはじめ、郡内の行政や関係団体などが集まり、盛大に開催されました。

参加者は、新年度の目標・抱負などを語り合いながら、用意されたイノシシやシカの肉を使ったジビエ料理や各町の特産品に舌鼓を打っていました。



「日野郡の魅力発信を」と平井知事

## 2/1 森林の仕事就業相談会



公益財団法人鳥取県林業担い手育成財団主催による「森林の仕事就業相談会」が米子市文化ホールで開催され、参加しました。

参加したのは当組合のほか5団体、来場者は5名、当組合のブースには、3名が訪ねてくれました。

「近い将来、林業に就業したい」「情報収集してから考えてみたい」「職業のひとつとして林業を考えている」など、相談内容は多岐にわたりましたが、持参した資料を広げながら、町の林業の担い手確保のため、その相談に応じました。



## 2/14 チェーンソー技術研修会



チェーンソー作業の安全性向上を図ることを目的とする「チェーンソー技術研修会」（主催：林業・木材製造業労働災害防止協会鳥取県支部）が本町で開催され、県西部の林業従事者12名が参加、安全作業に対する意識の高揚を図りました。

林業の現場における労働災害は、安全装備の導入など技術向上の取組みなどによって減少してはいるものの、未だに事故をなくすまでには至っていません。

当組合でも、作業員の技能の向上を図るとともに、基本となる安全対策を遵守し、労働災害の撲滅を目指していきます。



## 2/20 生産性の向上を目指して



鳥取県林業再生事業により、ハーベスタ4台、フェラバンチャー1台を導入することになり、この日、納車検査を実施しました。

これら高性能林業機械は、町内の素材生産事業者に貸与、事業体における素材生産性の向上と労働環境の改善を目指していただきます。組合では、これからも町内の素材生産者のみなさんの声に耳を傾け、林業を持続性のある産業構造に改善し、森林集約化の促進と森林資源の有効利用、林業従事者の安定的な確保に繋げていきたいと考えています。



## ① 花粉症対策関連事業に参画



花粉症は、有病率が国民の4割超にのぼるとの調査があるなど、多くの国民を悩ませている社会問題です。花粉の飛散時期は、樹木や草花の種類によって異なりますが、2月から5月ごろはスギ花粉の飛散量が多い時期です。個人でできる花粉症への対処法は、花粉を回避すること（抗原回避）、出てくる症状を抑える治療法（対症療法）、アレルギー免疫療法（舌下免疫療法、皮下免疫療法）等があります。

当組合も、これまで「発生源対策」として、カラマツや少花粉スギの植栽など、花粉の少ない森林づくりに努めてきましたが、このたび、スギ花粉症に対処する舌下免疫療法薬を発売している製薬会社と提携し、新たな花粉症対策事業に参画することになりました。

提携した事業内容は秘匿事項となるため、その詳細を公表することはできませんが、花粉症という社会問題の解決に向け、製薬会社との連携による「発症等対策」にも取り組みます。

## ② 組合員の山離れの「受け皿」となるために



新たに施行された「森林経営管理法」に基づき、町が、森林経営計画未策定者を対象に実施中の「日南町所有山林に関する意向調査」（日野上、福栄は未済）では、今後の山林経営について、「町または民間に山林経営と管理を委託したい」という回答が、「既に委託済」という方を含め、7割を超えています。この調査は、森林経営計画未策定者を対象にしたアンケートですので、この結果が、組合員のみなさんの意向であるとは限りません。ただ、平成28年6月から平成29年3月にかけて、全組合員を対象に実施した「山林意向調査」においても、組合員の「山離れ」の傾向は顕著で、当時、約1割の組合員が「譲渡希望」と回答され、町外在住者に限れば、約3割が「譲渡希望」と回答しておられました。



今後、組合では、こうした組合員のみなさんの「受け皿」になるべく、「森林組合による組合員所有山林の売買に係る方向性」について、議論していきたいと考えています。

## ③ カーボンクレジット創出に係る実証実験



当組合が森林の経営管理を受託している山林を対象にし、CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）の吸収量とカーボンクレジット（温室効果ガスの削減量と排出権を売買できる仕組み）創出の潜在量について調査するため、(株)日立システムズ（東京都品川区）と実証実験を行います。

現在、取得しているJ-クレジットが、政府主導のクレジットで、多くは法的な義務の履行のために使用されているのに対し、今回、実証実験を行うクレジットは、民間が主導するボランティアクレジットと言われるもので、非常に柔軟な仕組みで、国内企業は、自主的な目標達成と国際的なアピールのために購入（年間約20億円）しています。

この実証実験の結果を踏まえ、新たなカーボンクレジット取得の是非を検討していきます。

## 理事会開催報告（協議事項）

第5回理事会（令和7年1月31日）

- 令和6年度12月期仮決算並びに期末見込みについて
- 超高性能林業機械の導入に向けた検討について
- 固定資産の取得・廃棄について
- 再造林積立金取崩しについて



## ■ 日南町の林業を支える人 interview



小竹林業株式会社  
まえだ こうし  
前田 耕誠さん

Q1. 林業の仕事歴は？  
2年目です。

Q2. この仕事に入ったきっかけは？  
当社の福田さんと友達の弟から紹介してもらいました。

Q3. 仕事の内容は？  
伐倒した木材の搬出、トラックでの運搬です。

Q4. 難しいと思うところは？  
正確な伐倒方向、安全対策です。立木を伐倒しておられる方の近くを通るときは、無線で知らせたり、トラックに積み込みをする際には、車が来ていないか確認するよう心掛けています。

Q5. 林業の仕事についてよかったと思うところは？  
休日は家にいることが多いので、山での仕事は気分転換になります。週6日の勤務で、朝も早く、しんどいこともありますが、とてもやりがいがあります。

Q6. 今後の目標は？  
社長に認められて伐倒できるようになることです。

Q7. 熱中していること、または趣味は？  
ゲーム、本、ダーツ

今月の表紙写真の前田さん。前田さんは、昨年11月に開催した林業まつりの「伐木チャンピオンシップ」で、見事3位に入賞されました。取材へのご協力、ありがとうございました。

## 家庭教育推進協力企業とキャリア教育推進協力企業にW認定



このたび、組合では、子育てしやすく、子どもたちを健やかに育てる地域活動に参加しやすい職場環境づくりをめざす「鳥取県家庭教育推進協力企業制度」の趣旨に賛同し、県教育委員会と協定書を締結しました。

これまでも職員の学校・園行事等への参加、家庭教育（子育て）を支援するための休暇の取得などを奨励していましたが、林業まつりでの子どもたちの林業体験活動やもの作り体験など、今後、子どもたちの体験活動の場の創出にも取り組んでいきます。

また、高等学校と連携、協働して、ふるさと鳥取に愛着を持ち、ふるさと鳥取の継承と発展に大きな気概を持つ生徒を育成していくという「鳥取県キャリア教育推進協力企業制度」に応諾、このたび、県教育委員会から認定証が授与されました。

これまで、中高校生の職業体験やインターンシップなどは実施していましたが、今後は、高等学校への講師派遣などにも応じていきたいと考えています。



ミニユンボ操作体験（林業まつり）



高校生の林業体験

## 白谷工場の寄木細工の販売延期（おことわり）

温もりのあるデザインと独特の世界観で人気が集まる白谷工場（代表：中村健治さん）の寄木細工。当組合で、同工場のアクセサリーや文房具などの商品の販売を年明けから開始すると前号でお知らせしていましたが、残念ながら、延期することになりました。

台湾の人気アートギャラリーイベント「島作」に、鳥取県内の作家としては初めてとなる出展が決まるなど、新たな受注に工房での生産が追いつかない状況にあるというのが、延期の理由です。

当組合での販売開始の時期につきましては、改めてご案内します。



## 令和3年度出資配当金について

令和3年度の出資配当金の受取手続き等を済ませておられない組合員のみなさまへのお知らせです。令和6年8月30日付けの通知でお知らせしていますように、**令和7年5月26日**までに、このお手続きを済まされませんと、配当の権利がなくなります。お手数をおかけしますが、先の通知に同封しましたハガキで、次のいずれかの手続きを希望されるのかご回答ください。

### ●配当金をお受取りになりたい方

「配当金の受領を希望」に✓（チェック）して、ご返送ください。

### ●配当金を増資に回したいとお考えの方

「増資として積み立てることを承諾」に✓（チェック）して、ご返送ください。

ご不明な点などございましたら、総務課までお問い合わせください。

（担当 総務課）

## 組合員 名義変更など

亡くなられた組合員の方の名義の変更がまだの方、引越しをされて住所を変更された方は、届出用紙をお送りしますので、総務課までご連絡ください。

（担当 総務課）

ご相談窓口

TEL 0120-988-928（フリーダイヤル）  
受付時間/9:00～17:00(土日・祝日除く)

山についての相談はこちらにお電話を！

組合員数 （令和7年2月末現在）

正組合員数 1,475名

准組合員数 6名

発行元

日南町森林組合

〒689-5211

鳥取県日野郡日南町生山4 2 3 - 2

TEL 0859-82-0130 FAX 0859-82-0321

E-mail info@n-forest.jp.net

HP http://n-forest.jp.net

ホームページ



Facebook



Instagram

